

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	みやざきけんりつごかせちゅうとうきょういくがっこう						②所在都道府県	宮崎県	
26～30	①学校名	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校								
③対象学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	全国初の公立中等教育学校として、宮崎県全域より1クラス40名（男子22名、女子18名）を募集し、前期課程1年生から後期課程6年生まで、計228名が在籍している。		
普通科	40	40	38	38	36	36	228			
⑥研究開発構想名	中山間地域からグローバル・リーダーを育成する課題研究及び発展的実践									
⑦研究開発の概要	全国初の公立中等教育学校である特徴と、グローバルな社会課題が山積する中山間地域にある強みを活かし、「課題研究」に加えて、課題解決の考え方や手法を学ぶ「グローバル・リーダー・トレーニング」を設置することによって、国際的に関心が高い社会課題を発見し、それらを解決するモデルを考察・実践する。									
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>中山間地域から、顕在化しているグローバルな社会課題に関心を持ち、深い教養やコミュニケーション能力、問題解決力等を身につけ、地方から国際社会で活躍できる「野性味あふれるグローバル・リーダー」を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、地域や社会に目を向け行動している生徒の割合が高く、将来は国際的な仕事に就きたいと考えている生徒が全国平均を大幅に上回っているなど、グローバルな社会課題に目を向ける素養を有した生徒が数多く在籍している。また、本校が位置する宮崎県五ヶ瀬町は少子高齢化や人口減少、農林業を中心とした産業の停滞、経済格差といった課題が山積した地域であり、このような課題は日本や世界でも同様に見られ始めていることから、「超課題先進地域」だと考えることができる。</p> <p>そこで、全国初の公立の中等教育学校である本校において、前期課程から後期課程まで6年間を見通した「総合的な学習の時間（グローバルフォレストピア学習）」の教育カリキュラムを開発し、課題研究を軸としながら課題解決の考え方や手法を学ぶとともに、国内外の大学や企業との連携および実践を行うことによって、中山間地域から、顕在化しているグローバルな社会課題に関心を持ち、その解決のモデルを考察・実践することで、将来、国際社会で活躍する「野性味あふれるグローバル・リーダー」を育成することができるだろう。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>平成27年度7月に授業公開を行い、関係機関よりSGH事業に関する方向性の確認やアドバイスを求める。また、生徒の研究論文（日本語・英語）を県内外の教育機関や図書館などに送付し、閲覧できる環境を作る。</p>								
	⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>特に、これまで本校が20年間積み重ねてきた研究実績を活用して、中山間地域からグローバルな社会課題につながる4つのテーマ「環境」、「経済格差」、「エネルギー」、「高齢化」の中から、生徒が興味・関心を持つテーマについてローカル（地方）からグローバル（世界）につながる研究課題を設定し、研究を実施する。</p> <p>《テーマ例》</p> <p>「環境」：地元（五ヶ瀬町）とインドネシアの林業・バングラデシュの砒素公害の比較研究を通して、他のアジア諸国への環境対策普及方法についての研究</p> <p>「高齢化」：地元（五ヶ瀬町）とスウェーデンの高齢化対策の比較研究を通して、日本独自の高齢化対策開発実践とアジア諸国への普及方法に関する研究</p>								

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>「経済格差」：バングラデシュのマイクロファイナンスの活用状況をもとに、地元（五ヶ瀬町）にその取組を取り入れ、農業のIT化を図る方法についての研究</p> <p>「エネルギー」：インドネシアと地元（五ヶ瀬町）の小水力発電開発の比較研究をもとに、日本の地方、及びアジア諸国へのエネルギー対策の普及方法についての研究</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>3年生から6年生までの総合的な学習の時間（グローバルフォレストピア学習：週2単位、基本的に隔週木曜日に午後3時間で実施）において、課題研究を行う。4年生と5年生の総合的な学習の時間（週2単位 隔週木曜日に午後3時間で実施）において、課題研究を実施する。その際、国内外の大学や関係機関との連携を図り、海外でのフィールドワークを実施することによって、課題解決の実践につなげる。</p> <p>また、生徒が国際的な課題を解決するための自主的活動団体（学びの森カンパニー：仮称）を設立し、運営することによって、野性味あふれるグローバル・リーダーを育成する。例えば、五ヶ瀬町の過疎化対策のために様々な視点（環境、経済格差、エネルギー、高齢化）から解決策を考え、関係する機関へ提案や実践を行う。</p> <p>さらに、検証評価として、意識調査による生徒の変容の分析や進学実績、生徒が構築したビジネスモデルやプレゼンテーションおよび研究論文の評価を用いる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>3年生から6年生までの総合的な学習の時間（グローバルフォレストピア学習：週2単位、基本的に隔週木曜日に午後3時間で実施）において、問題解決の考え方や手法を学ぶ「グローバル・リーダー・トレーニング（GLT）」を設定し、段階的に実施する。具体的には、「国内外のリーダー像を学ぶ」「地方に散在する国際的に関心が高い社会問題を発見する」「課題解決につながる考え方や手法を学ぶ」「自分の考えをまとめ、他者と共有する手法（プレゼンテーション・論文）を学ぶ」の4項目に関するプログラムを設定し、国内外の企業や大学と連携を図りながら、講義および実習を行う。</p> <p>また、検証評価として、社会貢献活動や留学を含む自己研鑽活動に取り組む生徒数や意識調査による生徒の変容および進学実績、GTECをはじめとする総合的な英語力の点数や英語各種コンテストへの参加数および入賞数などを用いる。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>4年生の夏季休業中に、東京大学の留学生などが行う研修を受け入れ、課題研究についての意見交換を含む共同学習を行う。また、春季休業中に、オックスフォード大学現代日本研究所・ケンブリッジ大学東アジア学部日本学科に在籍している博士課程の学生等を対象にした「スタディーツアー@五ヶ瀬」を受け入れ、英語を使った共同生活を通して異文化理解を深めるとともに、課題研究活動を共同で実施する。</p> <p>6年生の夏季休業中に、東京大学の留学生やKIP（財団法人知日派国際人育成プログラム）の学生などを受け入れ、課題研究で取り組んできた内容を、英語を使って研究発表することによって、中山間地域からグローバルな社会課題を解決するための提言を行う機会とする。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は、平成6年の開校以来、「総合的な学習の時間（フォレストピア学習）」を設置し、6年間のゆとりと九州中央山地をはじめとする豊かな自然と文化を生かしながら、体験活動に基づく「知の総合化」を目指した課題研究を行ってきた。中でも、高千穂町土呂久地区の公害研究や小水力発電を中心としたクリーンエネルギーに関する研究、限界集落の実態に関する研究など、20年間にわたる課題研究の実績がある。また、本校の卒業生の中には、海外のベンチャー企業や外資系企業へ就職している者や大学の研究者になっている者等があり、課題研究において定期的に本校生徒への指導を行っている。</p>